

1万人の食チェックカード 強化期間 2016年6月19日(日)～25日(土)

1日の食事で摂取した食品に○印をつけましょう。

日	ごはん	パン	野菜	きのこ	海藻類	肉	魚	卵	豆類	牛乳	果物	食塩	油脂
19日													
20日													
21日													
22日													
23日													
24日													
25日													
合計													

性別 男・女 年代 人 世帯人数

～気づいたことを書きましょう～

公衛協名 (市町・支部・地区・学区)

7月31日現在で、摂取した食品を記録した食チェックカードが3千278枚提出されている。7月31日現在で、摂取した食品を記録した食チェックカードが3千278枚提出されている。

「締め切り間近に電話などで提出を促す」など、実践率の高い公衛協の取り組みが県内全域へと広がった成果と言えるでしょう。

回収されたカードに記載されたコメントを見ると、「今回からチェック内容が簡単になり、パランスが確認できた」「食事を手帖67ページから75ページ

平成28年6月19日から25日の1週間、県内約1万人の公衆衛生推進委員を対象に、毎日の食事でどんな食品を摂取したかをチェックする「1万人の食チェック事業 強化期間」が終了しました。今回はその結果を報告します。

また、目標である実践率50%を達成した公衛協は11団体で、昨年度の9団体から2団体増加しました。回収にあたって、「強化期間直前にカードを配布する」

作るときの参考になった」「意識して魚を食べるようになした」といけ

1ページの食に関する学習ページをご活用ください。(地域活動支援センター)

1万人の食チェック事業

平成28年度 実践率は36.2%

22公衛協・3,278人の推進委員が参加

ます。今年度は全県の推進委員9千047人のうち36.2%にあたる3千278人が参加し、昨年度の実践率(33.5%)を約3%上回りました。

● 1万人の食チェック事業実践率一覧 ● (7月31日時点)

No.	公衛協名	全委員数	実践者数	実践率	No.	公衛協名	全委員数	実践者数	実践率
1	府中町	91人	47人	51.6%	14	安芸太田町	48人	24人	50.0%
2	海田町	87人	33人	37.9%	15	北広島町	406人	136人	33.5%
3	熊野町	32人	25人	78.1%	16	安芸高田市	261人	75人	28.7%
4	坂町	23人	23人	100.0%	17	東広島市	999人	324人	32.4%
5	江田島市	166人	44人	26.5%	18	三原市	380人	13人	3.4%
6	竹原市	89人	72人	80.9%	19	世羅町	336人	51人	15.2%
7	大崎上島町	54人	45人	83.3%	20	尾道市	340人	70人	20.6%
8	大竹市	71人	42人	59.2%	21	福山市	1,173人	700人	59.7%
9	廿日市市	298人	164人	55.0%	22	府中市	689人	0人	0.0%
10	廿日市市大野	672人	272人	40.5%	23	神石高原町	31人	0人	0.0%
11	廿日市市佐伯	21人	15人	71.4%	24	三次市	450人	51人	11.3%
12	廿日市市吉和	23人	0人	0.0%	25	庄原市	360人	218人	60.6%
13	廿日市市宮島	44人	0人	0.0%	26	呉市	1,903人	834人	43.8%
		合計	9,047人	3,278人	36.2%				

COOL CHOICE

私のクールチョイス

① クールチョイスとは

このコーナーでは、【買い替え】、【サービス】、【ライフスタイル】の3つの視点で、さまざまなクールチョイスの事例を紹介します。

【買い替え】省エネで高効率な家電、設備、建築物の低炭素製品への買い替えなど
【サービス】公共交通の利用やエコルマークの付いた商品、グリーン電力の選択やスマートメーターによる「見える化」につながる低炭素サービスの選択など
【ライフスタイル】家庭でのエネルギー消費量・二酸化炭素排出量を減らす取り組みやエコドライブなど



環境省中国四国地方環境事務所
広島事務所加藤所長(右)と西調査官(左)

第1回目は、環境省中国四国地方環境事務所広島事務所所長 加藤博己様、環境対策課 地方環境対策調査官 西正賢様にクールチョイスの考え方を伺いました。

定、地球温暖化対策推進法と地球温暖化対策計画の策定などを踏まえ、2016年度は温暖化を防止するうえで大きな節目となる年です。パリ協定で日本は、2030年に2013年比26%の温室効果ガス削減を目指し、

請だけでなく、省エネルギー、省資源の取り組みはコストに直結するため、削減の効果を定量的に把握することも可能ですが、家庭部門・一般家庭では効果が見えにくいだけでなく、まだ、十分な取り組みが行われていると

使うのか。階段を歩いて上るのか、エレベーターを使うのか。何気ない日常生活のさまざまな場面、どちらが「賢い」選択か考え実行することが重要です。皆さんひとりの取り組みに期待をしています。

「賢い選択」で温室効果ガス削減

「クールチョイス」とは、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動や、温暖化対策において「賢い選択」を促す国民運動です。気候変動枠組み条約の取り決めに始まり、2015年12月にCOP21で採択されたパリ協

商業サービス・事業所などの「業務その他部門」と、私たちの生活である「家庭部門」は約40%(同2013年度比)削減という大変厳しい目標となっています。

は言えないことから、さらなる普及啓発が必要です。私たちの生活は選択の連続です。製品を買い換える時、省エネ型の商品にするのか、それとも安価なものにするのか。移動は公共交通機関を使うのか、自家用車を

6月28日、神石高原町の三和小学校6年生児童による学習発表会と公衛協推進委員との情報交流会が開催されました。

発表は、5年生のときに公衛協が協力して実施した水辺の学習会をきっかけに、「小田川のゴミ問題」「ぼくらの小田川水質向上大作戦!」「小田川に生き物を」の3班に分かれて、これからの水環境を守っていくために、私たちはどうすればいいのかを考えたものでした。

ゴミ問題班は、河川清掃を行ったり、環境衛生課への聞き取りを行いました。児童は、ごみが多いこと、減らないことを知り、これを解決するために警告看板の設置を企画しました。

水質向上班は、川の水が濁っていることや泡が浮いていることを確認しました。これを解決するため、皿や鍋の油は紙などでふき取ってから洗う、廃油せつけんを作ること、最終的に合併浄化槽の設置を地域へ伝えることを企画しました。



28 神石高原町公衛協
【水辺の学習会】

生き物班は、生き物が少ないことに気がつきました。生き物を増やすために、すみかを増やすことを考え、魚の人工産卵床づくりを企画しました。

子どもたちの発表の後、公衛協推進委員と児童で、各班の企画へのアドバイスや昔の川での遊び方、生き物の様子などを話し合

世代間学習・交流事業のモデル

3つのグループで保全活動



学び、発見、これから挑戦したいことを発表する児童(上)、児童の考えにアドバイスをを行う推進委員(下)

いました。

子どもたちは、今回の交流で得た情報を元に、小田川の環境を守っていくため、ポイ捨てを防止する看板の作成や水質検査、生き物調査を行う計画を立てています。

水辺の学習会で終わりではなく、地域の方との交流を通じて昔と今の様子を比べながら、今後の保全活動を地域で考えていく世代間学習・交流の取り組みの良い事例です。一歩進

んだ学社融合事業のモデルとしてぜひ参考にしてください。

(地域活動支援センター)